はぜひい な気 VC 心めるが、 僕自身はどちらかというと今サンジカリズム運動の歴 出てきた前号からは特に とくに へがする。 って つか一冊のパンフにして下さい。若い人が表面 の運動を記録する事それにはそれなりの意味を それにしても短く刻まれていて勿体ないよう ロシャ革命でのそれをやっています。 例えば「たそがれ日記」や 「論争」は面白く読みました。 「運動外史」等 尾関弘

ない 次資料をいささか所蔵しておりますので、ご入用でした 発表下さる事を希望します。私もそれに関する貴重な一 下さると同時に、「アナ連の末路」以降の「外史」をご ます。 ど連絡下さい ようですが如何でしょうか。他日、これを補充して 今回 ズム運動外史」が今回で終という事を残念に]の「外史」はまだ真相を述べつくして 目黒生 5

運動の現在でなく未来への展望に視座を。 から燃えさかる情念の発揚を期待する。 なし不可もなしの編集方針のようだ。 アナキズム 荒削りで 石川壮一

> すぎない 保守としてのインタナショナリズムも撃つ事は 種の愚かな民族主義に対峙しえるのだろうかと思います。 文化論等は浅薄で何を基準に日本を文化的後進国と 1 0 ンタナショナリズムもトロッキズムとよばれる左旋回 楽天時にすぎるコスモポリタニズムは知的帝国主義に 証左なのかしらん とうのと見 アナ か一向に不明だ。 △論争の渦▶信太君の所論は大沢批判等面白かっ ルコエスペラントのアジ文中「人類文化」がどう 天皇訪欧のバカ騒ぎに明かになった保守の 事に観念的で、これとそ「文化的後進国」 三浦氏の「比較文化の視点」 と敬服するばかり。一体とれである はできない。 は同 感 5

れている」というタテマを僕は一向に信じない。杉 な の稿をのせてほしい。対論の記事は記録者の名前をハッ しろ限界をふまえて読んでいる。全く内輪的で、 やら知れない。僕はリベルテール編集の内容を全く知 キリ書いてほしいものです。編集後記にしろ頭文字で何 文化的後進国……」の文面からみて、 いが、それでは「会員の自覚」もあったものではない。 尤もリベルテールでなく 「アナ連の末路」は面白い記事だった。若い 「全く内輪的」というのは誤解 を書いた江藤君とを思想的に 「自由連合」にしろ「乱」に があるようです。 信太君とアナル 人の気鋭 5 か

-10-

記録者に関する件は同感です。 る者の 葉も必要なのではないでしょうか。 くなくともリベルテー く内輪的」という言葉もでてくると思うのですが、す の言 5 も同じように思っているらしいし、そこから「全 葉でいえば、その場限りの責任しかもたない かに無責任さを保障するかということなのです。 間の緊張関係はあると思います。討論の記事の ルでは思想的・理論的に ただ編集後記に関して (西塔) 相違す 言

行錯誤 宣伝を行って て学友と同人誌を発行しているわけですが、学友に思想を 斗争を通じて、私の考え方の変革をしております。 在はリバー 織にも加わったりもしましたが、権威的組織を嫌い、 VC 父の影響で私も十八才頃からアナキズム文献を読 想を受入れた形でアナキストに近ずこうとしていますが なり 大学で学べぬという下で、 私の父は石川三四郎 凹へピッタリ 今 してきました。アナキズムと離れてト 大学入学を機会に牛乳配達しなが でも理論確立もできずにおりますが、 タリアニズム的 、と付く状態の牛乳配達をしなければ昼ま との通信等、あるい 5 所存する店の労働条件改善 わゆる啓蒙的 5 な立場にあり は彼の土民思 ロキズム組 運動に試 資本主義 むよう 現

> T ます。

生きることが死ぬことでもあるの 苦しく思っています。 毎日疲れきって帰る俺。毎日毎日がゆとりの出 が俺 何もできず心 新明文吉 ない

内容的 に面白 く なっ た

森岡耕三

編集が マ ズ

向井

ますが、古曲の研究、芸術論を展開して下さい。 り。非プルジョア的、権威的、ジャーナリズム的で好意 注目すべきグループがあれば取材 論争の渦、 良い(もう少し実証的に)。 したり寄稿して 方針にも B あ

的な芸術家(まん画家も含む)に、そのジャ

ンルの

現状

1 に洗練されたものにする。 等を語ってもらう。 芸術論を展開するというだけでなく雑誌自体を芸術的 N 」や住所等は手作 りの版画で色刷りにしたりする。 たとえばとびらの リベ ル テ

とうして生きているととがだが今生きている斗争をくめなくては、 そして何より今 久保

-11-

得たと も持 の生態学活 創立の有力 生態学とアナ 答えたものの概要を書 (一九六五年以後) の運動の後身である。 ブー っている。プロ アム 5 った ステ カなメンバ 動 んように のメ ル シズ 4 ンバ 4 オランダ語 ヴ の市 ムを綱領としている。し 1 1 だ * 伝統的なアナルシズム 5 ・、グレイ て見よう。 たったヴ の創立 で、 会の選挙に打って出 世界の注目を引い の小妖精たち、ちびっ子 7 V そしてカプー 7 * 2 1 1 > したが と異っ スの から かしそ て五議席を たプロ ア A 1 質 x ースのた点 問 0 0 運 T ヴ VC

既存の する つあるの で十分ではな プロヴォ たし、 50 0 ととが 体制に は、 われわれが突き上げ、 かできなか が は死んだ。 ブ П わ 5 依存 5 ヴ れ < は退屈 プロ して らか ったからだ。消極的だったのだ。と 0 いたのだ。 運 ヴ 反 われわれ自身の生活 した。われわれは機械になりつょはただの抗議運動でしかなか 権力の方向に変った。だがそれ た。 幾分成功はして 攻撃しようとして を十分に建設 5 る。 いた

民衆に われ , した社会の可能性を証明できなか, われは反権力社会主義社会を希望

> た。賢 だとい クロポ と感じ T たのである。 私は がて 5 た。このことを今やろうとしているのだ。プロ τ 人カプー っている。と 1 「賢人 とれは実のりのない ていた。だから敵に対して攻撃的だった。 も、それは不可能だと思い、すべては破滅に キンは革命の起源は絶望ではなく、 背景は絶望的なムー ヘカプー 4 ターの というのはクロポト の「扶助」と ものだ x ッ セート 5 というととを で、 5 3 ن ح 革命の希 思 想 + に深く ンの 5 助けること 5. ことだ。 本を書 知っ そして ヴ た。 向う

会創造 建設 私はいつくるか分らない革命、 起すと を学ば 議も健康を運動にはちが 相互関係をつくった。権力社会においてはブロヴ ると考えたのだ。われわ ととを示して、民衆の精神に変化を起 験のための運動を行なうこと、 われわれは民衆に権力が無くでもやって行 の運動と結合させねばなら を驚か ねばならな の可能性を民衆に示すとともに、 われわ せる革命 れ 5 が全面 。革命をわ 事前に いない れは白自転車計 的革命 今日にも明日 これを知らねばならない。 n が、 何 ないと考えた われ自身の を遂行しよ 今はこれ させ われ 画と る な んのだ。新社 らとする を新社会 にもだ 生活 わ 5 けると 5 れが 5 * 小 から の中 中それ の抗 しぬ さな で 5 経 き 0

-12-

在に 方法で 店が市 業と同 急速に伸びている。 も解決 わ を発足させ ない n は の自営が する。目下、と の各地区の人々の会議場になってい ア ٤ 様 , ムステル な、 5 7 うことを た。との農業は麻薬、毒薬、 あらゆる面で相互的に企画された れ た な革命は信じ 住居問 でカ がい ダム 基礎にして ブ 同題、社会問 で安価で販売している。 相互 4 1 扶助の経済を実習し ない。だから、たとえば、 スは いる。と 題それに 現在やってい 人造肥料 の生産物をわ 生態の る。こうした 4 A との た相互産業 なけ る \$ 問 をつか 販売 い題 n 互 を n T 農ば

ある。 あばべの 二十年間に破壊され るの き何 スラ 今わ n T で、 アムステルダ 市 n わ 5 か ムを破壊するとした n は家主と政府反対の坐りとみを続 る。だが実際アムステルがある。これはわれわれ われは町を改新する段階に来て て、一部の社会民主党議員 有利に売るために空屋 の四十 はこうした Ē. ムでは ねばならない老朽不良住宅が 家に坐 中五議席を獲得 家屋が不足しており、四万戸 5 り込みを そ 生にしてい 4 0 とにはわれわ てもわ スラ ムには家がたくさん やる いる。来る n A ことれ たけ わ るのだ。そ 防衛政策と呼 ている。 れを支持 れのなす が大 四 万戸 5 n

> 方では る。だからこれが相互扶助経済になる。 0 また老人のた お礼に何 T 2 で老人 かをしようとし から の自治センタ て、 を助けることに 昼夜 5 つでも、 て、お菓子を焼 を持って してい いか 5 る。 て、 なる必要に 5 老人の 約六百 たり

をつく な 開くのだが、 親が毎日交替して子供 る。との理想は約十人の両親が一つの幼稚園を持つ。 また子供 5 プに集団的責任が生ずる。坐りこみした家で幼稚園 から、 0 ており、子供たちに われわれの学校がいることになる たち 子供は学令に達すると学校に行かねばなら 0 ための学校 たちの面倒を見る。だから各グ 反権力 も初めた。以前 主義教育を試みて 訳だ。 から幼稚 ル 面 5

色を持 相互 なく、 近 しているものは、われ 1 サ をつくる。約六十の相互生産所すなわち相互工場と 5 ĺ 内に相互取引所をつくる。まず青年の っている。オ 一気自動車 オ二に労働組織が民主的であるととだ。 ビスセンタ などである。 -VC か われの衣服 清潔に生産され あり、これらは二つの重要な特 や、 ていて何の 白自動車 ためのセ 用エン現に生 汚染 >

経済を強調しなければならないと考えている。 両手を働かせなく ら工場主や新聞記者が参観に来るが、 てはならない。 左手で旧世界のドま 私は相互





いる を攻撃しながら新しい世界を建設するものである。 ように かに大木の幹に甦える茸のように、わ トピア主義と革命的行動の混合とも言えるもので敵 ピア建設を試み、 敵を攻撃して旧社会に侵入するのだ。これは 右手で、 われわれが市会でや れわれ自身の っって

これが彼等の一つおぼえの悪罵なのだ。 社会民主主義者は私をファ した。政府は悲鳴をあげ、 学でサポタージュをはじめ、 を、そして爆発させろ」といった。アムステルダムの大 上官の命令に従がうな、 してサボタージュを提唱したし、兵士に「無責任になれ。 門といった新しいものを備えている。私はある学校に対 老人などの部門の外に、右手の サポタージュ、暴力の部 わ れわれは約十二の部門をも 銃身に砂を、 われわれは市会で闘争した。 シストだと呼んだ。何故だ。 軍隊のサボタージュも瀕発 っている。 石油タンクに砂糖 農業、 住居、

ところが警察が木を逮捕して行った。この光景はテレビ る提案もした。自動車用の地下道をつくり人は市街を歩 で放送された。 ようにとも提案した。 生態学部 門は緑の少ないアムステルダムに木を植 私は自動車の屋根、家の屋根に庭をつく えた。

じ週各部門間の会議が行われて、共同の問題を討議する。各部門で働く者はすべて有志者で、自治を行っている。 共同の問題を討議する。

> はない。 考え、カ たりなど意味ない。 その方向をとってくれるように話し合うのだ。 われは我慢してそれらと話し合う。これは大したことで 会に来る者の中に好す 参加する 木曜日に カプー われわれの望んでいる方向でないと思ったら、 のだ。 ブーターとして行動し、集会に出席し、活動に は民衆大会という全員の集会が開かれ ターはアナルシストなのだ。カプーターとして カプー しくないものもいる。し ターと称し、カプーターとして集 締め しかしわれ 出し

君たち自身で決めよ」ということもある。誰かが一つの ても良い。自分でしたいようにすれば良いんだ。 プログラムにしたがって行きたくない時には、従わなく れており、「これを実行しようとするのか、 2 て議決することもあるが、すべては合意によっ 時として会合の人数が多く、 例外的 な場合に 投票に しないのか て行 b r

-14-

調整するのだ。 るだけだ。調整委員は各部門の希望にしたがってそれを ので、調整委員は、その部門がやっていることを知らせ なことはない。各部門ともに自主で、 各部門間の調整委員は、どこまでも調整を任務とする ので、他の部門の意に反するような方針を立てるよう 調整委員会の会合の記録は機関紙に発表 したいように する

足りない。そっちにまわしたが良いだろう」。 結合するし、金でなく皆で結合する。金の必要を調整す まわそうか」。 財政委員会に行って言う。 るのだ。たとえば私の本の売上げで金が出来たら、 財政委員会も一つの中心的な役割を持つが、金で皆を 委員会は言りだろう。「老人部では金が 「僕は金を持っている。誰に 私は

は二、三百人で毎週一回開かれる。 との会議は どについての討論はするが、決議はしない。場合によっ ては会議で承認されたことの新聞発表もやることがある。 おたがいが 民衆会議(全員会議)は基礎的なもので、 市政の政策、 昨日のように少ないときで約五十人、多い時 接触し合う場でもある。選挙に参加するかな 各グルー プの調整などを討論し、 理論的な問 また

だが誰も 有機的に成長して来て、何の規約もなかったが、二ケ プリ とれ ター に従 わ の討議を経て「相互憲法」ができた。 なくても良 5 のだ。 (三浦精一)

No. 8

アナ

キズ

ム文学/シ

ュティ

ルナーとプーパー

· / ラ

ナ

カ

1発行

プウィ

`!!!!!! п V • ~ n テ ル

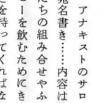
中央線水道橋駅東南口 毎週火曜日六時三〇分から (ウニタへ行く道 右側二番目の横丁を入る) 喫茶「終着駅」で

どを持ってくればなお面白いと思います。 ヒーを飲むためにきていいし、みんなが討論のテー たちの組み合せやふんいきによって決定されます。 宛名書き……内容は特に決めません。その時集まった人 アナキストのサロン。討論会、おしゃべり、読書会、 ت ا

... 原

ほか何でもいいんです。 案、自分たちのグループの自己紹介、 自 分の考えていること、反論、批判、 運動の報告、 批評、質問、 その

80 の投稿は、 ただし、権力主義者やそのシンパからの自己宣伝の 一行二十五字 お断わりしたいのです。 一三〇行程度



アイルランド問題

5 日 議暴動の原因を宗教だとゴマかしているにすぎない T ト系民族で、北部にア 口的に が政府 ア 5 カ 禍根の深さが分るだろう。 本が朝鮮、台湾、満州にして来たことを考え ク教徒と多数のプロテス は大英王国を構成 るだ 1 アイルラ アイ ント ようとする資本主義的利己心 ルランド全体としてはカト IJ ・ルラ けだ。 の後援で植民 も大して問題ではない。 とにある。 も優位を占め ックを貧困に追込 クであるために宗教的対立 ンド ンド 真因は差別することによ の南部は独立共和国で、 のカトリック教徒 する自治政府を持ち、 Ĺ ングロサクソン系のプロテ 衆にとってはカト た。との政府の後援による植民は ケルト系を押えて経済的に タント 異っているだけの んでおきながら、 アイルランド 北アイ 5 リックを信奉す から構成 それ のよう N 1) って労働を安価 北アイ をバ では され 小数の ラ " 少数者の抗 ンド クも vc 7 歪曲 ケルト 9 n クする なば、そ ス る 5 カ ル 0 で ブ され ケル る。 トリ ラン のだ。 4 は п 小 テ X \$ 2

> 日 きな意 「バプー ようとしているとわれ 「エマ・ゴー 丰 に開 ズ 欲が デ 4 から かれた無政府主義集会についても「今日のアナ 1 フの地 経典視され 感じられる。 ズ ムしと ルド 下運動 マンの いっ われに た マリ 墓石的哲学」につくりかえられ 情況の打開に協力して去る十月 た目次を見 秘密結社」「無政府革命主義の ンへの ア・スピリド 警告する。 クロポ るだけでも、 (三浦) ・ノヴァ ひたむ の迫害」 の手紙」

×

リベルテ オ十三号

生の ではなくて、ただいまこの場におけるわたしたちひとり をときつつ、自由の考え方を示 理論体系ではなく、 明語のつらなりをうけつけない ひとりの<向き>が、それ自体は無相 り、時間の延長線上のむとうにユー されると数行の文言にかわる簡単な信条である」「土着 ナキズムの特色は、 と思念の季刊誌」である。「土着アナキズムは精ちな 談話のなかでいくぶん舌たらずに表現さ 田 の草階俊雄君 直観的に把握され から 現実とユー と出している「土着アナ э I すところに トピアの間に無段階説 トピア ピア で時間的空間的説 て、ひとびとの平 0 が現わ ある」「つま キス れ いまことに 文字化 れるの トの感

中にしみとんでいく。(三浦)詩は、実にやさしい、小曲的な感じを持って、ととろのおける存在をさまざまに象徴する」。そしてそれぞれの

×

ッ・ナロード 創刊号

なら」。 理とし、 中心我々ヤポンナロ 人民による、 「我々はナロードニズム とし反戦、 まず革命的三悪追放運動ー国家、 人民のため (三浦) 反選挙、 ードニキは、ラヴリズムを行動の原ためのアナーキー革命を志向する。 反権力等々の運動を積極的に 0 精神に |革命を志向 のっとり、 社会、 人民 文明を する。 0 行

×

三文評論 二五〇号 続刊宣言

してくれ という論理で私RR 0 「私にとって、三文評 長野に 自叙伝、 場ならびに通信参加による読書会もやってい ようと、くれまいと、私は三文評論を続刊する、 お 日本脱出記を十二月と一月にとりあげてい いて独得 は三文評論を続刊 0 行き方 論は必要だから、他の誰が協力 をして いる。 します。……」。 (三浦) て、大

>

麦社、CSL、自由連合社の攻撃でほとんど埋められ社会革命運動ー社会革命戦線(SRF)機関紙準備号

ても批 判として受取られず、 かし批 気に攻撃をはじめる若い人々がうらやましくもある。し し、老人の無気力のせいもあるだろう。 麦社 T を見習っ てはいるが、それだけでは警戒し、 は結局一方の権力確立に終らせる。 る。僕は麦社とは切れ も多分に容共的な分子を含んでいる 判は堂々とやるべきで感情をまじ 判も攻撃もする訳には行かない。 てはならない 0 結局泥試合にしかならない。 T (三浦) いる積りで 避ける動機にはな 低級な権力主義者 えると批 純粋を求めて元 読む時間 ようだとは感 b 判が もな S 内 ゲ 5 0

×

黒閃

G社内報

沙

は、関西 2 を続けているかを教えてくれる。二人の同志は重傷を負 てい 京大アナ研に対する右翼民学同 て病院にはとばれたという。 る。 の諸君がアナー (三浦 キストとして、 入院費 のテロに のカカ 5 ンパ つい か に苦 を呼び T 0 L 5

×

山鹿ミカさんから

鹿文庫も同志向井様のお取計らいでほとんど整理できま去る十二月六日は故山鹿泰治の一周忌でございます。山三津へ参りまして早いものでもう五ケ月になります。

おれの心を壊してしまった。おれにとって ぜマスクを壊さなかった、君らはマスクを壊さな 制はしなかった。おれ であくびをしている君らは権力者にも似た偽善者だ! おれが権力者ならば、おれの言葉をマスクでい しまった。おれの主張を君らは理解しようとしたのか。 しれぬ。君らはマスクをつけたまま、思い思いに散って おれを つおれが権力で人を強制した。お うなだれ、仮装のマスクをしてい 口論し批判されることが、どんなに心 なぜ権力者と呼び、 が権力的な言葉を吐 独占欲が強い れは希望はしたが強 たではない いた時、 強かったかも マスクをこわ と罵るのだ。 於 いで、 か。な 1º

験道のような苦難の修行を積み重ねた上での行動でない と革命は成功しないと信じます。 T 革命 ます。 は山法師や僧兵のあばれる武力でなく、 それは歴史が教えてく 山伏の修

八年は五百円だった。例記するとこんな風になる。 発≫の計画、という見出し・三浦)。おかげてこの地域 記者が訪れ、一言多い私の妻の言葉がくわわって、神奈 百円。毎年正月が近づくと値上げ。私がとの地へ来た六 言うている矢先、 の商店主から私は白い眼で逆に監視の立場に立たされた。 家計簿が証拠、四年間を克明に記録、 川版にデカデカと同封切抜のごときものが出た。(この 腹立ちまぎれに記して来た私の家計簿のことで、朝日の となっても、 本能なのか。 くらこんなものが出たって、毎年物価は上昇の一途。 三浦さん。 だまって居られない物価高 文字が書きづらくなっても、発声が不自由 持って生れた性格なのか、それとも人間 また今月から床屋が百円値上げして八 データまとめ≪告 の世の中です。

-18-

えては 明年は郵便、鉄道、家賃 一九七一年12月 一九七〇年11 一九六九年11 一九六八年 如何でしょう。平易に。 っともっと時局を政権の無 月 月 厚木緑丘 " とすべてが上る。リベルテー 八〇〇円 七〇〇円 五〇〇円 六〇〇円 七一年暮れ 能、バカさかげんを訴 東京 杉藤。 四八〇円 三八〇円

(やっとこれだけ書けた、二時間かかって、 夜中に

と追記されている)

年賀状から、

わたしの自由な自我観、人物風土記風のものを書き終り 故里パリに行く 若者を相手に、まだ元気で、もう一、二度ぐら 小生も七十の坂を越して、埼玉の大森林の中の大学で た b 上梓 のつもりで つもりでいます。やっと一年半かかり、 す。 (松尾邦之助 いオニの

じられ としなくとも、やはり住みずらくなりそうです。ここし そんなふらに感じられるからといって、住みよくしよう ているようですが、それが昨今、日ましに住みずらく感 ってみる存念です。 ばらくは中途半端を大事に 住みよくしようとすればするほど、住みずらくなるー くこの世は住みずらいものと昔から相場がきまっ るとは、 とれはいったいどういうことでしょうか。 して、この謎解きに頭をしぼ (大沢正道)

ねずみ出 しの しと てくる いのしし去れ ば こそこそと吾れこそ顔 (加藤周吉)

ら祈念申し上げます。

一九七二年を迎え、

世界の平和と貴家の御清祥を心か

(萩原晋太郎)

互 も公害だらけの中に に疑問を持ちましたが、空気も交通も食物も政治も裁判 に祝したい 昨年は家事の都合で失礼しました。また、 と思いなおしています。 いて一年を無事に過したことは、お 一時は賀状

皆さんの御健勝を祈ります。

(森長英三郎)

ランス平和 主義者ユニ オン大会

K タナショナルの要求はまだ取戾されていないことを確認 十一月七日 (一九七一年) パリのコロンプで大会を開いた。 徴兵忌避の権利の一般的認識のため、 戦争抵抗者インタナショナルのフランス部会で、 との基本的権利が人権宣言の中に書きとまれるため ユネスコの介入をあらためて要求する。 戦争抵抗者イン ح

る。 ンに対する輸送を非難する。 フランスの徴兵忌避条文の緊急改善は不可欠だと考え あらゆる武器輸送、わけてもヴェトナムやパキスタ ヴ * ダヤの現況 その他の決議が 採 取 いされた

グラム 愛称)が一九七〇年九月十一日に七十 九七一年九月号はヴィ インドで出ているサル 贈呈され スワ たことを報じている。 ラジの運動のために一千万ル ノバジ(アチャリア・ヴィノバの ヴォ ダヤ (万人の幸福)誌の一 ガンジ 七才に ٤ 1 なり、 1 の死後、 - が集めら その

島武 更に 地の 80 な 0 き権 者に 7 5 六分の 郎 発展 6 5 de 山 和と 属 0 は る 8 別だが、 I 知 す うだ。 一を寄 过 は村から n して要求するグ て、 して生涯 一時後 な 立 日 附を ガ 附 のだから、 あ 村 L 退し > 本 するように説得する運動 の地 Ÿ 乞 カン へ流 カコ たが 1 ブ け 5 ラム と違っ イン 主は 1 0 7 ~、 7 大地主たちに自 ン運動 4 は 5 とんな説得ぐ Ŧī. はも なく、 する では て組織を持 ン運動になっ り返し 相 は、 貧民 当 VC 1発的に てか た 劾 5 が で、 ブ 当然 ない 5 果 た。 で す ラ ح を 4 故有 y 動 れ 所 ~: \$ 持 \sim か 2 0 から 有 T

載 0 関 試出 の発行所

蛇 原気付ネ 東京都世田 E ス社 谷区松原2 13 12 福荘 ---0 -号藤

ヴ 三文評論 閃 ナ N D デ 大阪市西区阿波堀通り2 長野 ١. 田市 市長野中 将軍野 ノ関 市 南 央郵便局私書箱四 機 織 T ·LLI É O 10 51 新 74 1 小 阿波堀ピ 28 野寺雄 一号 IJ ~ n N 悦 G 社 社

> 大連 とい 雑誌 何人か 個人 もとら あた ことな 新 i な の意味 から 5 2 1) 更に現在の活動状況 連合 われ の者 がら、 5 T ~ か 形 0 N 定 0 編集者 テー 5 L が明確にされ 0 が編集に た訳では 切れ た観 てグ るように思い ア ナ ルを読ませる誌面に作 味じの 念に 0 ル 丰 0 関 た ズム ない 機械的 多 プ 2 てい を 1 7. です。 よいも !!少い の雑誌を発行 など報告を兼 つく ます。 0 いるわけで して推賞するもの ない な 自 6 のだ。 B の、学問的 ようで 自由 0 7 で 1 ナ 誌面の はない 連合と すると ル 丰 す りあげる ね て投稿 1 スト が、 す。 ブ VC はずで 5 組織機関誌 が連合して . そ 5 の新 して 2 1 うととで 0 T N が せる \widehat{H} ざし す。 しい P 1 下 さ ブ

一月八日 志 建設 シズ て特 から ば のため ムは既 色ある のも 0 六名での が無 VC B 成理論ではなく 0 を出 か 壊す 0 編集会議を終えた。 たの せたと信じ は淋し 未来の理論であり、 るととが か 0 た。 原稿も地方 (E T O) しか で きる。 心本

来への 誌とし ァ ナ 可

☆社 ☆アナ 7 会主義 人間の魂 4 萩原晋太郎著 萩原晋太郎著 〇円 はる訳 **平**三五円 二五〇円 〇円 三五五 7 Ŧī. 五円 円

公 政治 の正 1) ゴ 財産編 ウ はしもと・よしはる [OO円 〒四五円

公公 公 \$ 日本無政府主義運動史 風雪を越えて 科学から自由 強権主義の解 大地」誌に ア 発表された幸徳事件 山口 武 C 1健助著 良 7 才一 二著 テ 二〇〇円 〒三五 編 黒戦社版 一五〇円 遠藤訳 デ三五円 三五〇円 一五〇円 デ五五五 四五

公 ☆ \$ \$ 公 無政府共産主義、人類解放えの道八太舟三著七〇〇円 無政府主義組織論・無政府主義とサンジカリズ 死刑囚の思い出 無政府主義者はとう答える はしもと・よしはる訳 か ブ・ 君高校生?読んでみないか 增補決定版 和田久太郎著 近藤憲二編 岩佐作太郎著 二〇〇円 古田大次郎著七〇〇円 〒四五円 八〇〇円 4 八〇円 〇円 テ六五円 マハ五円 デ三五円 四 五円

☆個人 \$ 階級 フランス人よ共和主義者になりたければ更に努力をノ エンリ 闘争説の誤 社会・ ・ド・サ コ・マラテスタ著 国家 10 著 エマ・ゴ は 太舟三著 もと よしはる訳 一三〇円 二五〇円 100円 一三〇円 宁三五円 テ四五円 干三五 三五円 円

*

ナ

四号

4

ナトス社刊

三〇〇円

リベルテール

一部 100円

毎月一回15日発行 Le Libertaire 昭和47年1月15日発行 Vo, I, No 2

発 行 所

編集兼発行者

東京都練馬区大泉学園町 2190 萩原晋太郎方

リベルテールの会

(振替東京 133830番 三浦精一)